

多治見市生活排水対策推進計画

(姫川流域)

第3次改訂版

令和6年3月

第1章 生活排水対策の推進に関する基本的整理

1-1 生活排水対策推進計画策定地域の概要

(1) 自然的条件

ア 地形の概要

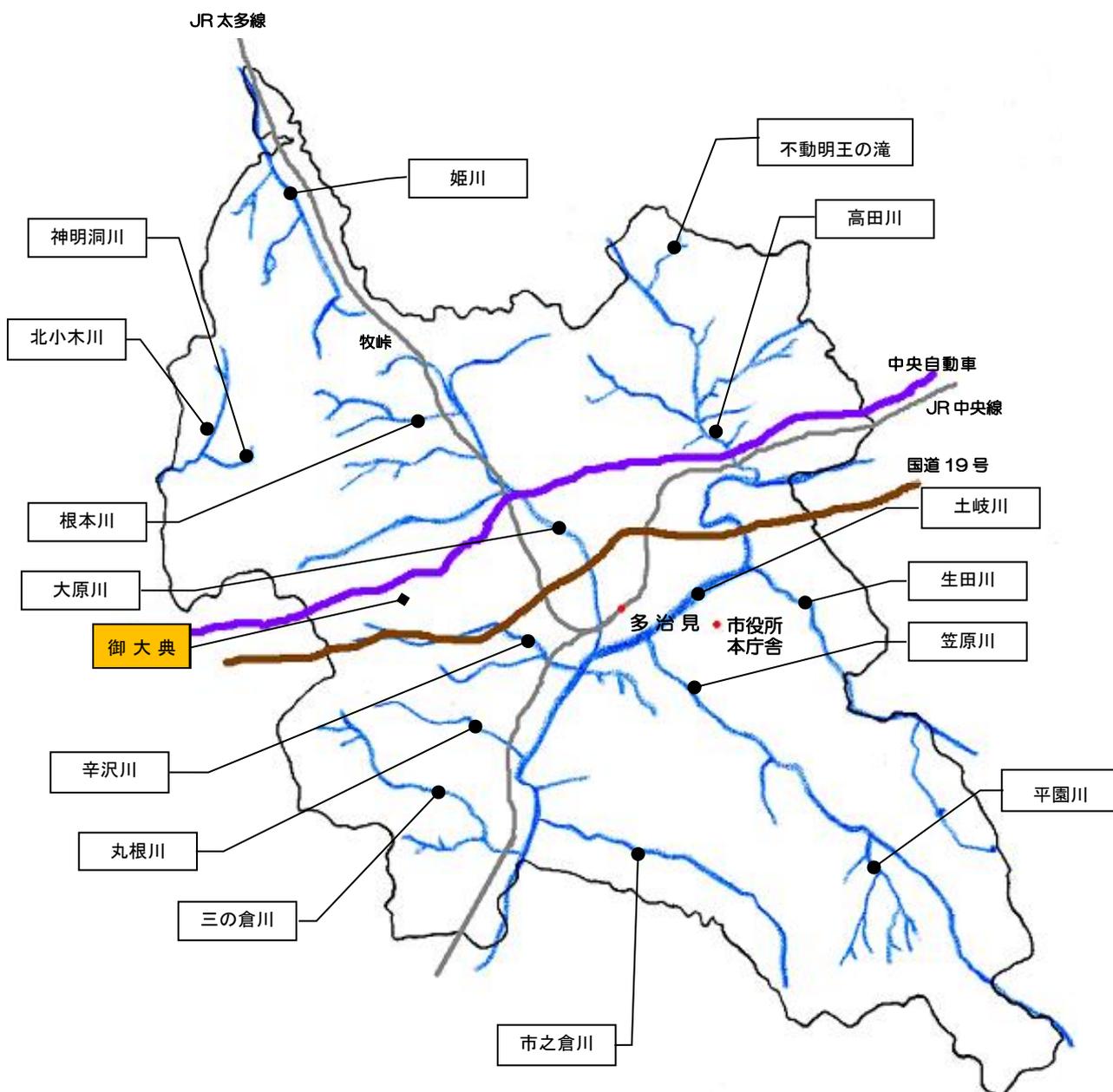
本市は岐阜県の南東部、愛知県との県境に接しています。周辺を山地や丘陵地に囲まれた盆地地形で、本市中心部を土岐川が流れ、土岐川とその支流沿いに平地が形成され、周囲は丘陵地となっています。一方、市北東部の浅間山から南東部に伸びる山地と西部の高社山から南の道樹山に伸びる山地は、所によっては岩盤が露出し、急峻な山地となっています。また、笠原地域は周辺を山や丘陵地に囲まれた盆地地形となっています。

姫川流域は、当市の北西部にある南姫地区で、面積 14.18 km²、地区の北部、東部および西部は可児市に接しています。南北にJR太多線及び国道248号が走り、東部および西部の丘陵地は住宅団地が造成されています。



イ 河川、湖沼の概要

本市の河川は、大針町の牧峠を分水嶺に土岐川(庄内川)水系と木曾川水系に分かれています。土岐川は恵那市山岡町の夕立山を水源とする河川で、市の中心部を東西に横切っています。土岐川には高田川、大原川、生田川、笠原川、市之倉川等の支川があり、これらは狭い平地を形成しながら流下し、土岐川に合流しています。本市西部の平地を流れる姫川は長野県を水源とする木曾川の支流にあたり、可児市内で可児川に合流し、その後木曾川へ流入しています。



ウ 気象条件

本市の年平均気温は年々上昇する傾向が見られ、過去約 30 年で 1℃程度上昇しています。日最低気温が 0℃未満の冬日日数には大きな傾向がありませんが、日最高気温が 30℃以上の真夏日日数は増加傾向にあり、近年は 5 月、10 月にも真夏日がみられ、35℃以上の酷暑日は 30 年前の 3 倍近くになっています。

年間降水量は、概ね 1,000～2,000mm ですが、ゲリラ豪雨的な降り方が夏季を中心に増えています。

風況については、年間を通じて西寄りの風が卓越していますが、年平均風速は 1m 未満となっています。

(2) 社会的条件

ア 人口・世帯数の動向

本市の人口及び世帯数は、陶磁器産業の発達とともに増加し、その後は、郊外における大規模な住宅団地の開発により増加を続けてきました。平成 12(2000) 年をピークに、自然動態、社会動態ともにマイナスの状況が続いており、今後も引き続き人口減少が予想されています。

南姫地区の人口・世帯数推移（直近 3 年）

	世帯数	人口
令和 3 年 4 月 1 日	2,132	4,580
令和 4 年 4 月 1 日	2,128	4,502
令和 5 年 4 月 1 日	2,144	4,459

イ 産業の動向

本市の事業所数及び従業員数は、製造業の割合が減少し、サービス業の割合が増加する傾向が見られます。

本市の事業所数は、卸売・小売業が 1,290 事業所で最も多く、その次に製造業で 716 事業所となっています。規模別事業所数では、事業所当たりの従業員が 1 人から 4 人の小規模な事業所が全体の約 6 割を占め、20 人未満では全体の 9 割以上を占めており、小規模事業所が多くなっています。

ウ 土地利用

本市では山林・原野面積が最も広く、市域の 50%強を占めています。利用状況の変化をみると農地や山林・原野が減少し、宅地や道路、その他（駐車場・雑種地等）が増加しています。

エ 水利用状況

水道の現況（多治見市）

計画給水人口	（人）	116,000
現在給水人口	（人）	104,555
普及率	（%）	100
一日平均給水量	（m ³ /日）	35,545
一日最大給水量	（m ³ /日）	42,100

資料：令和3年度岐阜県における水道の概況

水道給水量及び給水人口（多治見市）

	給水人口 （人）	給水量 （千m ³ /年）	日最大給水量 （m ³ /日）	1人1日最大給 水量（ℓ/日・人）	有効水量 （千m ³ /年）
令和元年度	106,844	13,070	39,551	370	11,670
令和2年度	106,081	13,076	38,694	365	11,831
令和3年度	104,555	12,974	42,100	365	11,623

資料：岐阜県における水道の概況（令和元年度、2年度、3年度）

オ 生活排水処理形態別人口

南姫地区における生活排水処理形態別人口の推移（単位：人）

		平成6年度	平成14年度	平成24年度	令和4年度
計画処理区域内人口（年度末）		4,980	5,545	5,111	4,459
生活排水処理人口		310 (6.2%)	2,289 (41.3%)	2,627 (51.4%)	3,011 (67.5%)
公共下水道	流域関連公共下水道	-	-	-	
	公共下水道	-	-	-	1,749
	特定環境保全公共下水道	-	-	-	
	簡易な公共下水道	-	-	-	
農業集落排水		-	-	-	
合併処理浄化槽		310	2,289	2,627	1,262
コミュニティ・プラント		-	-	-	
水洗化・生活雑排水未処理人口 （単独処理浄化槽・汲み取り）		4,670 (93.8%)	3,256 (58.7%)	2,484 (48.6%)	1,448 (32.5%)
計画処理区域外人口		0	0	0	0

カ 集落の状況

姫川流域の南姫地区は、多治見市の北部にあり、姫町、大藪町及び大針町で構成されています。

- ・姫町 多治見市の最北端に当たり周囲は可児市に接しています。西部の低地をＪＲ太多線が走り、その東に旧国道 248 号が走っています。姫駅周辺には古くからの商店街がありますが、町の大部分は東部丘陵地帯に開かれた住宅地帯で多治見市内では早くから宅地造成が行われた町です。
- ・大藪町 西は愛知県犬山市に接し、犬山に通じる県道善師野多治見線が中央を東西に走っています。山林が多く、東部は水田地帯、中央台地に南姫小学校があり、丘陵地には住宅団地が造成されています。
- ・大針町 東で可児市に接し、東部をＪＲ太多線と県道善師野多治見線が走り、西部を南北に国道 248 号が走っています。大部分が低い山林で西に高く、中央低地は水田であり、中央部に南姫中学校があります。

キ まちづくり計画

関連する計画としては、第 3 次多治見市都市計画マスタープラン（令和 3 年度～12 年度）があり、そのまちづくりのテーマ及び目標は次のとおりです。

《テーマ及び目標》



南姫地区が含まれる西部・南部丘陵地エリアは、市域の北西から南東に位置し、大部分が保安林と農業振興地域で構成され、山裾・山あいには集落・住宅団地が位置している、豊かな自然環境が残るエリアです。

「里山の緑とともに暮らすまちづくり」をテーマに、広域的に優れた森林機能を有する緑を保全するとともに、まとまりのある農地を地域の優れた自然環境として保全し、農業振興と調和の取れた暮らしを維持していくこととしています。

1-2 生活排水処理施設整備状況

(1) 下水道の整備状況

南姫地区は平成24年度から下水道施設の整備を開始し、平成26年4月1日から供用を開始しています。令和4年度で、この地区内の下水道整備はほぼ完了しました。

(2) 生活排水処理施設の移り変わり

南姫地区の下水道整備が進んだことにより、生活排水処理は徐々に公共下水道利用へと切り替わってきています。

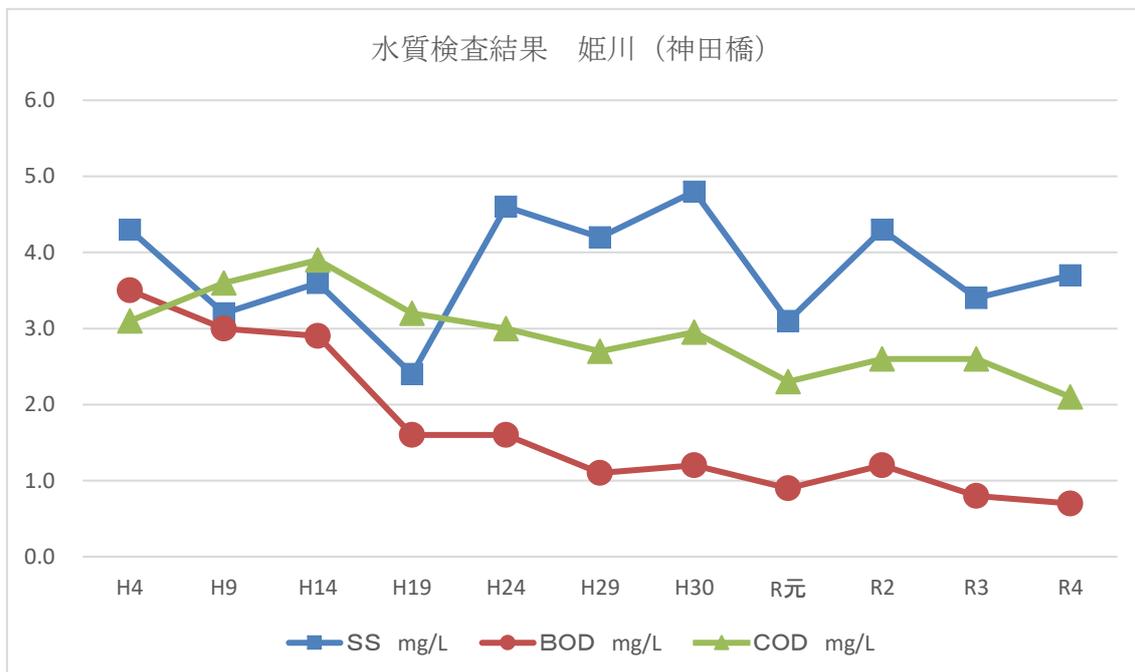
生活排水処理人口割合の推移をみると、平成6年度6.2%で低かったものが、平成14年度41.3%、平成24年度51.4%となり、下水道の整備普及により令和4年度では67.5%まで向上しています。一方、生活排水未処理の単独処理浄化槽及び汲み取り処理の割合は、平成6年度の93.8%から令和4年度は32.5%まで減少しています。

今後、ますます浄化槽等から公共下水道処理への移行が進み、生活排水処理の割合は増加することが想定されます。

1-3 水質の現状及び動向

河川水質調査結果の推移（測定地点：姫川 神田橋）

	H4	H9	H14	H19	H24	H29	R4
pH	7.3	7.5	7.3	7.0	7.1	7.2	7.4
SS (mg/L)	4.3	3.2	3.6	2.4	4.6	4.2	3.7
BOD (mg/L)	3.5	3.0	2.9	1.6	1.6	1.1	0.7
COD (mg/L)	3.1	3.6	3.9	3.2	3.0	2.7	2.1
T-N (mg/L)	1.43	1.9	2.5	2.3	1.8	1.7	1.2
T-P (mg/L)	0.08	0.13	0.16	0.12	0.12	0.12	0.05



第2章 生活排水対策推進計画の目標

2-1 生活排水対策の基本理念

生活排水対策推進計画により、市民に対し生活排水対策に必要性について普及啓発を行うとともに、下水道未接続世帯への切り替え促進及び各家庭での発生源対策により水質の保全を図ります。

魚が泳ぎ、ホタルが生息できるような水環境をつくり、快適な地域をめざします。

2-2 生活排水対策の基本方針

下水道などの生活排水処理施設への移行促進及び台所排水などの発生源対策の普及啓発を効果的に推進するために、基本方針を次のように定めます。

- (1) 公共下水道整備区域においては、下水道への切り替えを促進します。それ以外の区域においては、汲み取り及び単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を図ります。

※多治見市では生活雑排水の処理対策として、合併処理浄化槽設置に対して補助制度を設けており、未処理や単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を促進していきます。

南姫地区における生活排水処理形態別の目標人口

(単位：人)

	現況 令和4年度	本計画目標 令和15年度	下水道計画目標 令和17年度
1 計画処理区域内人口	4,459	4,363	4,347
2 生活排水処理人口	3,011 (67.5%)	4,141 (94.9%)	4,347 (100%)
(1) コミュニティプラント	-	-	-
(2) 合併処理浄化槽	1,262 (28.3%)	207 (4.7%)	15 (0.4%)
(3) 公共下水道	1,749 (39.2%)	3,934 (90.2%)	4,332 (99.6%)
(4) 農業集落排水施設	-	-	-
3 水洗化・生活排水未処理人口 (単独処理浄化槽)	1,103 (24.7%)	169 (3.9%)	0
4 非水洗化人口(汲み取り)	345 (7.8%)	53 (1.2%)	0
5 計画処理区域外人口	0	0	0

※本計画目標(令和15年度)は、現況(令和4年度)と多治見市公共下水道基本計画目標(令和17年度)からの推計値

- (2) 生活排水対策推進計画の内容について、住民に理解を求めるとともに生活排水処理施設への移行などを円滑に推進するため、計画の普及啓発に努めます。
- (3) 将来予想される開発行為についても生活排水対策推進計画に基づいた計画とします
- (4) 生活排水処理に伴って発生する汚泥については、し尿処理場や下水処理場などで適正に処理します。
- (5) 生活排水対策推進計画は、社会情勢の変化などにより見直しが必要が生じたときは、関係機関との調整を図り修正を行うこととします。

2-3 対象水域の目標水質

水質が向上していることを踏まえ、水質目標としてBOD 2mg/L 以下を維持することを目標とします。

(測定地点：姫川 神田橋)

2-4 達成年次

令和15年度

2-5 生活排水対策による水質改善効果

本計画により84.4%の水質改善が見込まれます。

	排出負荷量 原単位※1 (g/人・日)	排出負荷量(kg/日)		
		現況 (令和4年度)	目標年度 (令和15年度)	負荷削減量
公共下水道	-	0	0	0※2
合併処理浄化槽	10.9	13.8	2.3	11.5
単独処理浄化槽	44.3	48.9	7.5	41.4
汲み取り(し尿)	40.0	13.8	2.1	11.7
合計	-	76.5	11.9	64.6
負荷削減率		84.4%		

※1 排出負荷量原単位は、「流域別下水道整備総合計画調査指針と解説：平成27年1月国土交通省水管理・国土保全局下水道部」を参考にした。

※2 公共下水道は土岐川流域へ圧送される。公共下水道の普及により、姫川流域での負荷削減は見込まれないため「0」とした。

第3章 生活排水対策に係る啓発に関する事項

3-1 生活排水対策に係る啓発に関する基本方針

実践活動の推進として、既存の住民中心の組織と連携し効率的な推進を図っていきます。

- (1) 住民による水辺環境の整備を支援していきます。
- (2) 市が行う出前講座(おとどけセミナー)などを活用し、生活排水対策について啓発を行うとともにHPや広報などによる情報提供を行います。
- (3) エコカレッジなどの環境講座により、水辺環境の保全の必要性について市民の理解を深めていきます。

第4章 その他の生活排水対策の実施の推進に必要な事項

4-1 関係部局間の連携に関すること

関係部・課と連携して計画を推進していきます。

4-2 関係市町村との連携に関すること

可児川流域2市1町（多治見市・可児市・御嵩町）が連携し、計画を推進していきます。

4-3 関係する他の計画との調整に関すること

以下の計画と調整を図り計画を推進していきます。

- ・第8次多治見市総合計画
- ・第3次多治見市環境基本計画
- ・多治見市生活排水処理基本計画
- ・多治見市公共下水道基本計画